

江戸のスポーツと東京オリンピック展

東京都江戸東京博物館（両国） 2019.07.06～08.25



2度目の「東京オリンピック・パラリンピック」開催を2020年に控え、日本におけるスポーツとオリンピックの歴史をひもとく展覧会の開催である。



風雨之可術。武士の技術を凝った伝統的な競技

本展では、前半で「江戸から明治におけるスポーツ事情」に着目して、蹴鞠、相撲、打毬などの伝統的な競技に関する絵画や道具類から、近代オリンピックで活躍した日本人選手の競技用具やメダルなどの多彩な資料を、一味違う浮世絵などを通して紹介をしている。

さらに、西洋スポーツに関する最初期の書籍の公開に加えて、日本の近代スポーツ受容道のりを辿っている。後半の展示は、日本人最初のオリンピック選手が誕生した「第5回ストックホルム大会」や“幻の五輪”といわれる「1940年東京大会」に、熱狂した「1964年東京大会」の貴重な資料やカラー映像で回顧する特集が企画されている。最後に来年開催の「東京2020大会」の見どころが紹介されているので、この機会に日本のスポーツや東京オリンピックについての見識を深めるためには非常に役立つ展覧会の開催である。



雷電為右衛門の道中羽織 雷電為右衛門所用 公益財団法人日本相撲協会相撲博物館蔵



第12回オリンピック東京大会記念手帕 1936年(昭和11)頃 東京都江戸東京博物館蔵



織田幹雄金メダル(三段鉄) 織田幹雄所有 1928年(昭和3) 織田正彦・織田利雄